

赤ちゃんの頃にワクチンを接種できたおかげで、今日も友達と一緒に、元気に学校に通って勉強しています。
(ラオスの小学校の子どもたちより)



ラオス人民民主共和国

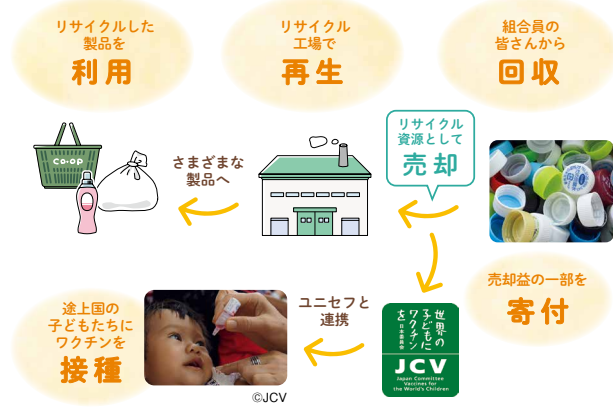
継続的な支援で子どもたちへのワクチン接種率は上昇しているものの、全体的に山がちな国土に49の民族が暮らすため、接種率が低い地域があります。また国の財政が厳しく、看護師の不足を医療ボランティアが補っています。

ブータン王国

医薬品であるワクチンは、製造から接種の間まで冷凍・冷蔵された状態で管理する必要があります。しかしヒマラヤ山脈の南麓に位置するブータンは、標高差が激しく未舗装の道路もあり、ワクチンの運搬に徒歩で10時間もかかる地域もあります。JCVではワクチンだけでなく、保冷库などの関連機材の支援も行っています。



ペットボトルキャップが 子どもたちの命を守る + 地球の未来を守る



宅配やお店で、組合員の皆さんから回収しているペットボトルのキャップ。リサイクル資源として活用するだけでなく、世界の子どもたちへの支援にもつながっています。地球と子どもたち、それぞれの未来を考えた取り組みです。

子どもたちと地球の未来に ペットボトルのキャップで

子どもたちへの支援に
つながっています

1日に4000人、約20秒に1人の子どもが、ワクチンで予防できる感染症で命を落としています。開発途上国では、ポリオや破傷風などの感染症がまだまだに猛威をふるい、多くの子どもが命を失われているのです。こうした子どもたちの命を守るため、コープデリグループでは組合員の皆さんからペットボトルのキャップを回収、リサイクル資源として売却し、その売却益の一部を「認定NPO法人世界の子どもにワクチンを 日本委員会」(JCV)に寄付しています。寄付金は、定期的な予防接種が必要なミャンマー、ラオス、ブータン、バヌアツ

プラスチック使用量の
削減につながっています

ペットボトルの本体は94・4%が回収されていますが、キャップの回収率は推定約20%。多くは燃やされてしまうため、二酸化炭素(CO₂)を排出し地球温暖化につながってしまっています。そこでコープデリグループではペットボトル本体だけでなくキャップも回収し、リサイクル資源として利用。石油から作られるプラスチックをリサイクル資源に置き換えるため、その分のプラスチックの使用量を削減でき、原料である石油も使わずに済みます。大切な地球の資源を守り、温暖化の防止につながっています。

※PETボトルリサイクル推進協議会「17年次報告書(2023)」より

コープのお店の買い物カゴにも
生まれ変わっています



97個分の
ペットボトルキャップが、
買い物カゴの約30%に
再生利用されています

ペットボトルキャップの回収にご協力ください

この取り組みは、「キャップを回収してワクチンにつなげてほしい」という組合員の声から始まりました。2012年からキャップの回収を始め、これまでに累計で約7億911万個(重量からの換算)、約1,772万円の寄付につながっています。子どもたちの命を守り、地球の未来につなげるため、これからも皆さまのご協力をお願いいたします。

回収方法

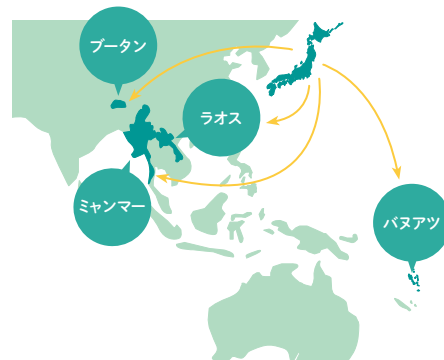
キャップとペットボトルをすすいで乾かし、分けてお出しくください。

宅配

商品お届け用のポリ袋に入れ、袋の口をしぼって出してください。

お店

店頭回収ボックスに入れてください(袋などには入れないでください)。
※一部コープのお店がない地域があります



アツに、ワクチンや関連機器を贈る活動として役立てられています。



テレビCMでも紹介!

コープデリグループは、事業と活動を通して「SDGs(持続可能な開発目標)」の達成を目指しています。



今回の取り組みは、目標16:

平和と公正をすべての人に

につながっています。

